

目次

会長就任にあたって	1p	収支予算書(収支)	6p
第29回研究発表大会のお知らせ	2p	学会からのお知らせ	6p
代議員(社員)総会・理事会報告	4p	西川治先生を追悼する	7p
正味財産増減計算書	5p		

会長就任にあたって

地理情報システム学会会長 大佛 俊泰 (東京工業大学)



令和2年5月16日に開催された第70回理事会においてご推挙を賜り、このたび、本学会の会長に就任することになりました。新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の猛威により全世界が混乱し、我が国でも緊急事態宣言が発出され、未曾有の事態が続く「嵐の中の船出」となりました。ますます、この重責を痛感しております。

今回のコロナ禍は社会に大きな変容をもたらすでしょう。ヒトやコトやモノの劇的な変化は既に世界規模で起きています。すぐに回復するものもあれば、回復に何年も要するものもあるでしょう。また、これを契機に、今までにはなかったサービスや技術が生まれる可能性もあります。従来までの空間移動が制限されることで、テレワーク、遠隔授業、遠隔医療、宅配サービス、行政オンラインサービスなどが急速に活性化しています。急激に膨張した需要は新たな市場を生み出し、これに呼応するように新規サービスとそれを支えるためのインフラや技術が注目を集めています。地理情報と通信技

術を活用した生活基盤サービスの重要性が多くの人々に再認識されていると言えます。

劇的な変化の中には地理情報を伴う現象は無数に存在します。その変化を冷静に捉え、背後に潜む原理を探り、将来を見据えた予測や制御が必要となるでしょう。コロナ禍との戦いは長期化するとの見通しであり、社会が正常化する過程、および、ポストコロナ社会を見据えて、新しい時代の要請に対応した活動を模索していくことが求められます。過去に発生した大地震や豪雨をはじめとする未曾有の自然災害に対して、GISは大きな役割を果たし、復旧復興のための力強い原動力となりました。このコロナ禍に関しても、会員の皆様が有する優れた知識・技術・経験・情報、そして、何よりも熱い情熱をもとに、この難局を乗り越えるためのお力添えを頂ければ幸いです。

本学会でも、様々な活動が制限され、従来とは異なる方法や工夫が必要となることと思います。しかしながら、この苦境を逆手にとって、今までにはない新しい活動方法や公表方法、さらに、新しいコミュニティ醸成方法について検討して頂ければ幸いです。研究会やワークショップなど、従来までは現地参加者のみで閉じていた活動も、インターネットを有効に活用すれば、参加者数の増加を見込めるかも知れません。また、活動内容をアーカイブすることで、情報発信効果はさらに高まる可能性もあります。皆様による様々な工夫によって、この難局を乗り越え、一層の発展につなげて頂けることを願っております。学会執行部としても全力を挙げて支援させて頂きたいと考えています。

2022年度から高校教育において地理総合が必修科目となり、そこでは地図と地理情報システムの活用が大きな柱となっています。また、今年度から小学校では「GIGAスクール構想」

が始まります。幼少時から ICT 環境に慣れ親しみ、情報通信社会で生き抜く力を育むために、児童生徒向けに 1 人 1 台 PC 端末を配布し、高速大容量の通信ネットワークを整備する構想です。PC 端末はこれまでのノートや鉛筆と同様に、当たり前前の学習アイテムとなるでしょう。現在、高度なプログラミングとソフトウェアで可能としている地理情報分析も、子どもたちが演習問題、あるいは、遊びのひとつとして容易に実行する日はすぐに到来することでしょう。地理情報科学はますます一般市民の生活に溶け込み、その重要性は広く認知されていくことでしょう。将来の社会像を見据えながら、現在の活動を一層強化し、新しい活動を柔軟に取り込み、多くの価値と魅力を発信することのできる学会運営を志して参ります。皆様におかれましては、本学会の魅力を積極的に発信していただき、会員数の増加にむけてご協力頂けるようお願いいたします。学会員の皆様のご支援とご協力、そして、本学会におけるご活躍をお願いして会長就任のご挨拶とさせていただきます。

第 29 回研究発表大会のお知らせ

第 29 回地理情報システム学会研究発表大会は、10 月 24 日（土）・25 日（日）に開催いたします。ただし、**会場（電気通信大学）**、あるいは、**オンラインのいずれで開催するか現在検討中**です。決定次第、学会 Web・メーリングリストでお知らせします。

企画セッション、研究発表（講演およびポスター）、機器展示および業界説明コーナーについては、下記の例年通りの日程で受付をします。ただし、オンラインでは、一部の企画セッション・展示を開催できない場合があることについて、ご理解ください。

なお今年度は、会場で開催する場合も**懇親会開催・託児所設置は行いません**。

発表申込スケジュール

企画セッションの申込期限

7 月 15 日(水)正午

研究発表（講演およびポスター）の申込期間

7 月 1 日(水)～7 月 15 日(水) 正午

講演論文集用原稿 PDF のアップロード期間

7 月 1 日(水)～8 月 31 日(月) 正午

機器展示および業界説明コーナーの申込期限

8 月 15 日(土)まで

参加費

決定次第、学会 Web ページでお知らせします。

1. 企画セッション

シンポジウム・ワークショップ・ハンズオン・チュートリアル・GIS 技術紹介など形式は問いません。1 セッション[1 時間 40 分]を単位とし、複数セッションにまたがることも可

能です。

個人会員・賛助会員が、セッション企画を提案いただけます。特に、各分科会の成果発表を行うまたとない機会ですので、積極的な企画提案をお願いいたします。

なお、オンラインでの企画セッション実施の可否を申込時にお知らせください。

■ 企画セッション申込

受付期間： 7 月 15 日(水)正午まで

申込先：井上大会実行委員長宛 (rinoue@tohoku.ac.jp)

申込要領： 下記の情報をメールでお知らせください。

1. セッション企画名
2. 種類（シンポジウム、ワークショップ、ハンズオンセッションなど）
3. 代表者の氏名、所属、メールアドレス
4. 概要（400 字程度）
5. 必要セッション数
6. 必要機材（PC など）
7. 想定出席者数
8. オンラインでの実施の可否

企画の実施可否は、7 月 31 日（金）までにメールでご連絡致します。なお、会場設備などにより、ご希望に添えない場合がございますので、予めご了承下さい。

2. 研究発表

講演発表とポスター発表があります。投稿された論文ファイルは、大会 Web で公開します。なお今年度は、講演発表・ポスター発表を重複して行うことはできません。

講演発表：地理情報システムに関する理論研究・応用研究の成果で、原則として未発表のものに限ります。また、独創性・完結性がないものの発表は認めません。論文提出が必要です。

ポスター発表：研究形成段階の討論や調査・活動報告などでも結構です。自由で活発な情報交換の場としてご利用下さい。論文の提出は必須ではありませんが、提出された原稿は公開します。なお、オンライン開催の場合は、大会 Web ページへのポスターの掲載、ポスター紹介セッションの開催、コアタイムにおけるオンライン会議ツールを活用した質疑応答を予定しています。

講演発表・ポスター発表共に、商業宣伝的な内容は認めません。機器展示や企画セッションにお申し込み下さい。

なお、講演発表・ポスター発表の発表者（第一著者）に、測量系 CPD 学習プログラムのポイントが付与されます。大会での発表後、(1)「GIS 上級技術者」への申請や、(2)「測量系 CPD 学習プログラム」への登録が可能です。希望者は大会終了後の当該年度内に、事務局に氏名と発表論題とをお申し出ください。

■ 応募資格

- (1) どなたでも発表できます。ただし、発表者または共同研究者（連名者）のうち、少なくとも1名は学会の個人会員（正会員または学生会員）でなければなりません。また、賛助会員は、1口につき個人会員1名分の発表資格を有します。
- (2) 発表者となるのは、賛助会員枠を含めても1名につき1題に限ります。ただし、以下の場合、発表の重複が認められます。
 - ・ 複数の発表の共同研究者（連名者）となること。
 - ・ 通常セッションと特別セッションの両方で発表を行うこと。
- (3) 大会発表会場で指定日時に発表できること。発表日時の指定は受け付けません。また、会場の都合により発表総数を制限する場合があります。
- (4) 会員は、2020年度までの年会費完納者であること。

■ 発表申し込み手続き

1) アブストラクトの提出

受付期間: 7月1日(水)～15日(水) 正午(必着)

EasyChair<<https://bit.ly/2My4xby>> からお申し込みください。

※ EasyChair の利用方法は、大会 Web ページの説明書をご覧ください。

※ 記入された氏名・論題が、大会 Web ページに掲載されます。受付期間終了後の修正は一切受け付けませんので、予めご了承下さい。

発表の可否は、7月31日(金)までに学会 Web ページに掲載するプログラムにてご確認下さい。個別のご連絡は行いませんのでご注意ください。

2) 講演論文集用原稿の提出

受付期間: 7月1日(水)～8月31日(月) 正午(必着)

※ PDF形式の発表論文原稿を EasyChair にアップロードして下さい。

※ 作成要領は、大会 Web ページ掲載のテンプレートファイルをご活用下さい。なお、本年度より「GIS-理論と応用」の書式に統一し、ページ数を4ページ以上10ページ以下とします。

- ・ 受付期間外に到着した原稿は一切受け付けられません。発表を取り消させて頂きますので、予めご了承下さい。
- ・ 使用言語は日本語または英語とします。
- ・ 原稿の仕上がりサイズはA4版4～10枚とします。
- ・ 発表者に連絡がつきにくい可能性がある場合は、申込の際に確実な連絡先も明記して下さい。原稿の不備等で連絡を差し上げる場合があります。
- ・ 発表原稿の編集・出版の権利は、地理情報システム学会に帰属します。

3. 第16回大会優秀発表賞

学生会員の発表レベル向上を図るため、本年度も「大会優秀発表賞」を設けます。以下の条件を満たす方が審査の対象です。

- ・ 本学会の学生会員であること(2020年7月15日までに事務局に入会届が到着した方を含みます。ただし、2020年度までの年会費完納者)
- ・ 修士号未修得であること。
- ・ 講演の発表者であること。

研究(論文)内容や発表技術の優秀者からセッション司会者が受賞候補者を推薦し、学会賞委員会の中に設置される大会発表賞小委員会の議論を経て受賞者を決定します。受賞者数は特に定めません。

受賞者には賞状を後日送付し、GISA ニューズレター116号に氏名と所属を公表します。また、『GIS-理論と応用』Vol.28, No.2 に発表要旨を掲載(モノクロ印刷のみ)します。受賞者は11月13日(金)までにA4用紙1枚の原稿提出にご協力下さい。

4. 第9回ポスターセッション賞

ポスターセッションでの議論の活性化を図るため、本年度も「ポスターセッション賞」を設けます。ポスターセッション参加者全員が審査の対象です。

受賞者には賞状を後日送付し、GISA ニューズレター116号に氏名と所属を公表します。また、『GIS-理論と応用』Vol.28, No.2 に発表要旨を掲載(モノクロ印刷のみ)します。受賞者は11月13日(金)までにA4用紙1枚の原稿提出にご協力下さい。

5. 機器展示および業界説明コーナー

機器展示: PC、または、android/iOS タブレット上で稼動する GIS のデモソフトの展示。

業界説明コーナー: 学生に会社の業務内容を説明し、仕事内容を理解してもらうための意見交換の場。

■ 展示申込

受付期間: 7月1日(水)～8月15日(土)

※ 8月1日(土)までの受付分は、展示概要を GISA ニューズレター115号に掲載します。

(以降の受付も、会場配布パンフレット、及び、大会 Web ページには掲載します。)

応募資格: 学会賛助会員に限ります。出展費用は無料です。応募要領: 以下を明記の上、E-mail にて事務局宛にお申し込み下さい。

- ①会社名 ②担当者名 ③連絡先電話番号、E-mail ④展示ソフト名称(業界説明コーナー出展の場合は不要)
- ⑤展示概要(200字程度。ニューズレターや会場配布のパンフレット及び大会 Web ページに掲載します)
- ⑥必要電源の個数

出展可否の連絡: 9月18日(金)までに展示要項と共に E-mail で通知します。

※ 会場の都合により、各日の展示件数、及び、1社当たりの機器構成(電気容量)について、事務局が調整することがあります。

※ 業界説明コーナーは、パンフレット設置等のスペースがあれば、大会直前のお申込みでも受け付けます。事務局までご相談ください。

代議員(社員)総会・理事会報告

■ 一般社団法人地理情報システム学会 第69回理事会議事録 [理事 山本 佳世子]

開催日時: 2020年5月16日(土) 15時00分~16時10分
開催場所: オンライン(ZOOM)開催

理事9名が出席し、定足数を満たして成立した。

審議事項:

第1号議案 2020年度事業報告について

・山本理事から、配布資料にもとづき、2019年度の実業報告が行われ、学術研究発表大会の大会収支の収入に徳島県観光協会からの補助金を追加したうえで、承認した。

第2号議案 2020年度決算と会計監査について

・事務局から、配布資料にもとづき、2019年度の決算と会計監査について説明があり、引き続き玉川監事、矢野監事から監査報告がなされ、承認した。

第3号議案 2020年度事業計画について

・山本理事から配布資料にもとづき、2020年度の実業計画について説明があり、承認した。
・第29回学術研究発表大会の開催(10月、電気通信大学)については、開催することし、社会的状況を考慮して開催方法を検討することとした。
・IAG'i Conference(11月、台湾)については、台湾からの連絡が届きしだい、本学会の会員に周知することとした。

第4号議案 2020年度予算について

・事務局から配布資料にもとづき、2020年度の予算について説明があり、承認した。

■ 一般社団法人地理情報システム学会 第15回社員総会議事録 [理事 山本 佳世子]

開催日時: 2020年5月16日(土) 16時15分~16時40分
開催場所: オンライン(ZOOM)開催

本年度の社員総数43名のうち29名が出席し、7名が議決権書面を提出したことから、本総会は定足数を満たして成立した。

第1号議案 2019年度事業報告について

・山本理事から配布資料にもとづき説明があり、満場一致でこれを承認した。

第2号議案 2019年度決算と会計監査について

・大場理事から配布資料にもとづき説明があり、引き続き玉川監事と矢野監事から監査報告がなされた。満場一致でこれを承認した。

第3号議案 理事及び監事の任期満了に伴う退任について
・議長から配布資料にもとづき説明があり、満場一致でこれを承認した。

第4号議案 理事及び監事の選任について

・議長から2月に実施した理事および監事選挙の結果を、配付資料に基づき説明し、満場一致で承認された。なお、被選任者は、いずれもその就任を承諾した。

■ 一般社団法人地理情報システム学会 第70回理事会議事録 [理事 山本 佳世子]

開催日時: 2020年5月16日(土) 16時50分~17時15分
開催場所: オンライン(ZOOM)開催

理事10名全員が出席し、定足数を満たして成立した。

審議事項:

第1号議案 会長及び副会長の選任について

・会長に大佛理事を、副会長に厳理事を選任した。

第2号議案 事務局長の選任について

・事務局長に山本理事を選任した。
・担当理事を以下のように選任した。なお、被選任担当理事は全員その就任を承諾した。

資格担当: 大伴理事

財務、総務担当: 大場理事

編集、学会賞担当: 奥貫理事

広報担当: 河端理事

大会、企画担当: 厳理事

支部・分科会担当: 貞広理事

教育担当: 中谷理事

渉外担当: 山田理事

第3号議案 2020年度事業計画について

・資料の一部修正を含めて事業計画を承認した。

第4号議案 2020年度予算について

・資料のとおり承認した。

■ 一般社団法人地理情報システム学会 第16回社員総会議事録 [理事 山本 佳世子]

開催日時: 2020年5月16日(土) 17時15分~17時45分
開催場所: オンライン(ZOOM)開催

本年度の社員総数43名のうち30名が出席し、本総会は定足数を満たして成立した。

報告事項:

報告1 会長・副会長・事務局長の紹介について

・大佛会長、厳副会長、山本事務局長が紹介された。

報告2 2020年度事業報告について

・配布資料にもとづき説明があり、満場一致でこれを承認した。

報告3 2020年度予算について

・配布資料にもとづき説明があり、満場一致でこれを承認した。

正味財産増減計算書

2019年 4月 1日から2020年 3月31日まで

一般会計

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
特定資産運用益	241,340	1,050	240,290
特定資産受取利息	241,340	1,050	240,290
受取会費	12,326,000	12,812,000	-486,000
正会員受取会費	9,497,000	9,841,000	-344,000
学生会員受取会費	389,000	431,000	-42,000
賛助会員受取会費	2,440,000	2,540,000	-100,000
過年度受取会費	46,000	71,000	-25,000
大会参加費	1,306,000	1,508,608	-202,608
正会員	395,000	474,000	-79,000
学生会員	59,000	72,000	-13,000
非会員	326,000	464,000	-138,000
懇親会参加費	526,000	498,608	27,392
刊行物収益	1,388,560	1,786,463	-397,903
機関誌(GIS理論と応用)収益	615,740	780,196	-164,456
大会誌収益	558,000	688,000	-130,000
受取刊行物送料	24,820	26,673	-1,853
掲載料収益	190,000	291,594	-101,594
資格・教育認定事業収益	245,000	510,000	-265,000
申請料収益	100,000	50,000	50,000
認定登録料収益	45,000	90,000	-45,000
更新料収益	100,000	370,000	-270,000
受取補助金等	730,000	30,000	700,000
日本地図センター研究活動支援金	30,000	0	30,000
大会補助金	700,000	30,000	670,000
受取寄付金	0	400,000	-400,000
特定寄付	0	400,000	-400,000
雑収益	330,573	101,790	228,783
受取利息	154	69	85
その他収益	330,419	101,721	228,698
経常収益計	16,613,473	17,220,911	-607,438
(2) 経常費用			
大会開催費	1,716,868	1,059,868	657,000
臨時雇賃金	294,000	240,000	54,000
会場借料	430,780	0	430,780
会議費	1,728	0	1,728
旅費交通費	267,609	53,120	214,489
通信運搬費	48,680	30,816	17,864
消耗品費	247,349	253,696	-6,347
諸謝金	100,000	0	100,000
支払手数料	26,722	3,996	22,726
懇親会費	300,000	478,240	-178,240
刊行物制作費	2,287,090	2,121,120	165,970
会報印刷費	468,750	464,400	4,350
機関誌(GIS理論と応用)印刷費	1,657,960	1,487,160	170,800
大会講演文集(大会誌)印刷費	160,380	169,560	-9,180
分科会運営費	18,080	52,732	-34,652
防災GIS	0	52,732	-52,732
若手分科会	18,080	0	18,080
委員 会 運 営 費	877,496	1,035,865	-158,369
企 画 委 員 会	5,530	161,180	-155,650
学 会 賞 委 員 会	43,770	10,000	33,770
編 集 委 員 会	390,330	493,344	-103,014
教 育 委 員 会	293,308	99,105	194,203
資 格 認 定 協 会 G I S	144,558	272,236	-127,678
日本地図センター研究活動支援費	0	10,000	-10,000
消 耗 品 費	0	10,000	-10,000
特 定 寄 付	30,000	45,000	-15,000
支 援 費	0	120,000	-120,000
若手海外派遣スカラシップ	0	120,000	-120,000
本 部 事 務 局 運 営 費	11,782,891	12,633,503	-850,612
人 件 費	5,098,729	6,553,286	-1,454,557
臨 時 雇 賃 金	1,169,357	1,104,340	65,017
法 定 福 利 費	803,181	726,144	77,037
旅 費 交 通 費	390,296	334,936	55,360
通 信 運 搬 費	1,193,236	1,017,152	176,084
減 価 償 却 費	129,600	129,600	0
消 耗 品 費	400,765	360,396	40,369
修 繕 費	48,600	48,600	0
賃 借 料	1,689,420	1,676,486	12,934
租 税 公 課	106,975	70,167	36,808
支 払 負 担 金	10,000	10,000	0
支 払 手 数 料	20,332	22,764	-2,432
支 払 報 酬	392,400	388,800	3,600
そ の 他	330,000	190,832	139,168
地 方 支 部 運 営 費	331,543	423,338	-91,795
北 海 道 支 部	32,832	0	32,832
東 北 支 部	0	6,321	-6,321
関 西 支 部	98,730	133,702	-34,972
中 国 支 部	79,661	79,269	392
四 国 支 部	20,000	103,614	-83,614
九 州 支 部	100,320	100,432	-112
経常費用計	17,043,968	17,501,426	-457,458
評価損益等調整前当期経常増減額	-430,495	-280,515	-149,980
損益評価等計	0	0	0
当期経常増減額	-430,495	-280,515	-149,980
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	-430,495	-280,515	-149,980
一般正味財産期首残高	70,267,192	70,547,707	-280,515
一般正味財産期末残高	69,836,697	70,267,192	-430,495
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III 正味財産期末残高	69,836,697	70,267,192	-430,495

収支予算書(収支)

2020年 4月 1日から2021年 3月31日まで

一般会計	(単位:円)		
科 目	予算額	前年度予算額	増 減
I 事業活動収支の部			
1. 事業活動収入			
会 費 収 入	12,535,000	13,015,000	-480,000
正 会 員	9,880,000	10,260,000	-380,000
学 生 会	315,000	315,000	0
賛 助 会 員	2,340,000	2,440,000	-100,000
大 会 参 加 費 収 入	1,405,000	1,360,000	45,000
正 会 員	450,000	450,000	0
学 生 会	100,000	100,000	0
非 会 員	450,000	450,000	0
懇 親 会 参 加 費	405,000	360,000	45,000
刊 行 物 収 入	1,400,000	1,500,000	-100,000
機 関 誌 (GIS 一 理 論 と 応 用) 収 入	750,000	800,000	-50,000
大 会 講 演 論 文 集 (大 会 誌) 収 入	650,000	700,000	-50,000
資 格 ・ 教 育 認 定 事 業 収 入	425,000	550,000	-125,000
申 請 料 収 入	75,000	150,000	-75,000
認 定 登 録 料 収 入	50,000	100,000	-50,000
更 新 料 収 入	300,000	300,000	0
支 部 事 業 収 入	246,000	196,000	50,000
北 海 道 支 部	50,000	0	50,000
関 西 支 部	96,000	96,000	0
沖 縄 支 部	100,000	100,000	0
雑 収 入	80,000	80,000	0
そ の 他 収 入	80,000	80,000	0
事業活動収入計	16,091,000	16,701,000	-610,000
2. 事業活動支出			
大 会 開 催 費 支 出	1,255,000	1,460,000	-205,000
臨 時 雇 賃 金 支 出	250,000	300,000	-50,000
会 場 借 料 支 出	250,000	350,000	-100,000
会 議 費 支 出	30,000	50,000	-20,000
旅 費 交 通 費 支 出	50,000	150,000	-100,000
通 信 運 搬 費 支 出	20,000	50,000	-30,000
消 耗 品 費 支 出	250,000	200,000	50,000
懇 親 会 費 支 出	405,000	360,000	45,000
刊 行 物 制 作 費 支 出	2,380,000	2,430,000	-50,000
会 報 印 刷 費 支 出	500,000	530,000	-30,000
機 関 誌 印 刷 費 支 出	1,700,000	1,700,000	0
大 会 講 演 論 文 集 (大 会 誌) 印 刷 費 支 出	180,000	200,000	-20,000
分 科 会 支 出	442,000	466,000	-24,000
自 治 体	100,000	80,000	20,000
防 災 GIS	50,000	50,000	0
F O S S 4 G 分 科 会	80,000	80,000	0
時 空 間 GIS	0	100,000	-100,000
若 手 分 科 会	152,000	96,000	56,000
I o T と GIS 分 科 会	60,000	60,000	0
委 員 会 費 支 出	1,550,000	1,920,000	-370,000
企 画 委 員 会 支 出	140,000	140,000	0
学 会 賞 委 員 会 支 出	60,000	60,000	0
編 集 委 員 会 支 出	400,000	350,000	50,000
教 育 委 員 会 支 出	300,000	300,000	0
資 格 認 定 協 会 (GISCA) 支 出	650,000	1,070,000	-420,000
特 定 寄 付 支 出	50,000	50,000	0
支 援 費 支 出	90,000	90,000	0
若 手 海 外 派 遣 ス カ ラ シ ッ プ	90,000	90,000	0
本 部 事 務 局 運 営 費 支 出	12,300,000	11,840,000	460,000
人 件 費 支 出	4,800,000	4,740,000	60,000
臨 時 雇 賃 金 支 出	2,000,000	1,650,000	350,000
法 定 福 利 費 支 出	750,000	750,000	0
旅 費 交 通 費 支 出	500,000	500,000	0
通 信 運 搬 費 支 出	1,250,000	1,250,000	0
消 耗 品 費 支 出	650,000	600,000	50,000
修 繕 費 支 出	50,000	50,000	0
賃 借 料 支 出	1,700,000	1,700,000	0
租 税 公 課 支 出	80,000	80,000	0
負 担 金 支 出	10,000	10,000	0
手 数 料 支 出	100,000	100,000	0
報 酬 支 出	410,000	410,000	0

地 方 支 部 運 営 費 支 出	863,000	836,000	27,000
北 海 道 支 部	100,000	70,000	30,000
東 北 支 部	47,000	50,000	-3,000
関 西 支 部	216,000	216,000	0
中 国 支 部	80,000	80,000	0
四 国 支 部	100,000	100,000	0
九 州 支 部	100,000	100,000	0
沖 縄 支 部	220,000	220,000	0
事業活動支出計	18,930,000	19,092,000	-162,000
事業活動収支差額	-2,839,000	-2,391,000	-448,000
II 投資活動収支の部			
1. 投資活動収入			
投資活動収入計	0	0	0
2. 投資活動支出			
投資活動支出計	0	0	0
投資活動収支差額	0	0	0
III 財務活動収支の部			
1. 財務活動収入			
財務活動収入計	0	0	0
2. 財務活動支出			
財務活動支出計	0	0	0
財務活動収支差額	0	0	0
当期収支差額	-2,839,000	-2,391,000	-448,000
前期繰越収支差額	53,847,747	53,687,722	160,025
次期繰越収支差額	51,008,747	51,296,722	-287,975

① 2019年度の収支計算書の次期繰越収支差額

② ①+2019年度の実績の当期収支差額

学会からのお知らせ

■ 委員会、支部、分科会への ZOOM の利用希望について

本学会では、学会活動を活発化するために、各委員会、支部、分科会の会議に限り、ZOOM の利用が可能です。

ご希望の方は、以下のルールに従ってお申込みください。

1. 事務局に原則として 1 週間前までに事前申請してください。

(開催日時、委員会名、支部名、分科会名、担当者名、担当者メールアドレスを明記してメールをお送りください)

2. 会議終了後には、参加者等の基本情報を事務局に報告してください。

3. 会議は必ずパスワード付きで開催とし、第三者には明かさなでください。

■ 2020 年度地理情報システム学会賞募集 (既報)

今年度の「地理情報システム学会賞」の応募期限が近づいています。昨年度より「研究奨励」「学术论文」「ソフトウェア・データ」「教育」「著作」に加え、「実践」部門が新設されています。

締切は、7 月 15 日 (水) です。応募方法は以下の Web ページでご確認ください。

<http://www.gisa-japan.org/awards/index.html>

■ 2020 年度 初等中等教育における GIS を活用した授業に係る優良事例表彰 (既報)

今年度も表記の表彰事業を実施します。国土交通大臣賞 (総合的な観点)、地理情報システム学会賞 (GIS の効果的

な活用の観点)、日本地図センター賞(地図の効果的な利用の観点)の各部門があります。

募集要項および過去の授賞については、以下の URL でご確認ください。受賞者の許可を得られたものについては、資料を公開しております。

<http://www.gisa-japan.org/awards/post-1.html>

応募締切は 2020 年 8 月 31 日(月) 17:00 必着です。

■ JpGU-AGU Joint Meeting 2020 : Virtual

5月に開催予定であった JpGU-AGU Joint Meeting 2020 は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、オンライン大会に移行しました。

会期：2020 年 7 月 12 日(日)～16 日(木)

参加方法等詳しくは http://www.jpгу.org/meeting_j2020v/

■ 2020 年第 5 回 IAG'i シンポジウム

6月に開催予定であった第 5 回 IAG'i シンポジウムは、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、11月に延期されました。なお、最終的に開催されるかどうかの判断は、会場である台湾側が 9 月に決定することになっています。

会期(予定)：2020 年 11 月 15 日(日)～18 日(水)

会場(予定)：国立中央大学(台湾・桃園市)

西川治先生を追悼する

地理情報システム学会元会長 岡部 篤行

本学会の初代顧問であられた西川治先生が、昨年 11 月 2 日に永眠されました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

言うまでもなく西川先生は、日本の地理学を先導され、視野の広い多くの研究業績を残された偉大な研究者でした。その業績の概要は、今年の『地理学評論』5月号に記載されておりますので、ここでは私が個人的にご指導を受けたことを回想することで、追悼の言葉とさせていただきます。

私が西川先生に初めてお会いしたのは、大学学部 2 年生(1966 年)の頃で、駒場で行われた地理学の授業でした。先生の授業の特色は、地理学の一般的な方法論を口頭で教えるだけではなく、当時は珍しかったスライド写真を駆使して視覚的に地理的事象を説明して下さったことでした。その写真は、地理的視点のみならず芸術的な香りもあり、いたく感銘したものです。この授業は、単に講義だけではなく、巡検のための事前調査が課せられ、夏休みに巡検に行くというものでした。学生たちは、適宜グループを組んで、資料を集め、それを分析するという学生が主体的に学ぶ授業形式であり、今でいうアクティブラーニングの先駆けだったと思います。工学部志望の学生には、地理的なデータ分析の挑戦を求められました。というのも先生の研究室には数字が大きな光電管で表示されるオルガン大の最新「電気計算機」があったからでした。それを駆使してのデ

ータ分析は、今にして思えば、GIS 教育の最先端ではなかったでしょう。

西川先生が、GIS の関わりで大きな貢献をされた一つに、日本学術会議の会員として「国立地図学博物館」の設立運動を進め、1988 年に竹下登内閣総理大臣宛に学術会議の勧告書を提出したことが挙げられます。学術会議で勧告書をまとめるのには、多くの他分野会員の賛同を必要とします。その説得は普通でも大変な仕事なのですが、当時、西川先生は怪我をされており、松葉杖で多くの会員の方々を説得して回られたとのこと。当時を回顧されて「怪我の功名で、皆さんによく話を聞いてもらうことができ、勧告書に賛成していただくことができた」と笑い顔でおっしゃっておりました。

勧告書「国立地図学博物館」は、地図の博物館機能と地図学の研究機能を持つもので、後者は現在の地理情報学の研究に他ならないものでした。西川先生は、この勧告を実現すべく 10 年以上も実現に向けて設立運動をなされ、特に文部省(当時)には幾度も説明にいらっしやっております。私も何回かご一緒させていただきましたが、常にはち切れんばかりになった鞆をお持ちになってこられました。その鞆がとても重そうに見えたので、お持ちしたところ相当な重さに驚かされました。その理由は、文部省の事務次官、局長、課長、課長補佐・・・と実に多くの方々にも名刺がわりに著書をお渡しして、「国立地図学博物館」の主旨を丁寧に説明されていたからでした。

国立地図学博物館実現への道は 10 年間の紆余曲折を経たのち、研究機能を分離した形で、東京大学に全国共同利用の「空間情報科学研究センター」が設立されることになりました。一方、西川先生が当初に構想された博物館機能そのものは、未だ実現しておりませんが、2007 年には「地理空間情報活用推進基本法」が施行され、翌年にはそれに基づき「地理空間情報活用推進基本計画」が決定され、2016 年には地理空間情報で社会的な価値を生み出すことを支援する「G 空間情報センター」の運営が開始されるといったように、西川先生の夢は形を変えて実現されつつあるのではないのでしょうか。

西川先生は、地理情報学の体系化にも一方ならぬ尽力をされてこられました。その先駆けは、1985 年に遡り、3 年間、文部省特定研究「国土情報利用の高度化に関する研究」を主導され、1990-1993 年には、文部省重点領域「近代化による環境変化の地理情報システム」、1994-1996 年には総合研究(A)「地理情報科学の深化と研究組織の研究」でリーダーシップを発揮されて、地理情報学研究の基盤を開拓されました。晩年になっても地理情報学体系化の研究意欲は衰えず、若手研究者を交えて『地理情報学入門』を出版されております。

このようにご活躍されていた西川先生が永眠されたことは大変残念なことではありますが、今は天国の新天地で巡検を楽しまれていることかとも思います。天国でやすらかに過ごしてください。

2020年5月末現在の個人会員 1026名, 賛助会員 51社

賛助会員

朝日航洋(株), アジア航測(株), アドソル日進(株), いであ(株), (株)インフォマティクス, ESRI ジャパン(株), NTT タウンページ(株), 愛媛県土地家屋調査士会, 応用技術(株), 大阪土地家屋調査士会, (株)かみこう, 関東甲信越東海 GIS 技術研究会, (財)岐阜県建設研究センター, 九州GIS 技術研究会, 近畿北陸G空間情報技術研究会, (株)こうそく, 国際航業(株), 国土情報開発(株), (株)古今書院 GIS 総合研究所, びばらき, ジェイアール西日本コンサルタンツ(株), (株)ジオテクノ関西, (株)昭文社, (株)ゼンリン, (株)ゼンリンジオインテリジェンス, 玉野総合コンサルタント(株), 中四国 GIS 技術研究会, デジタル北海道研究会, 東北 GIS 技術研究会, (株)ドーン, 長野県 GIS 協会, にいがた GIS 協議会, 日本情報経済社会推進協会, 日本スーパーマップ(株), (財)日本測量調査技術協会, (財)日本地図センター, パシフィックコンサルタンツ(株), (株)パスコ, 阪神高速技研(株), 東日本総合計画(株), 北海道 GIS 技術研究会, (株)マップクエスト, (株)松本コンサルタント, 三菱電機(株), 三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング(株), (財)リモート・センシング技術センター
自治体会員: 経済産業省特許庁, 総務省統計局統計研修所, (独)統計センター, 長野県環境保全研究所, 福岡県直方市

学会分科会連絡先一覧

- 自治体: 小泉和久 (千葉県浦安市)
事務局: 青木和人 (あおき gis 研究所)
Tel: 050-5850-3290
E-mail: kazu013057@gmail.com
- ビジネス: 高阪宏行 (地理情報技術研究所)
Tel: 03-5379-5601
E-mail: kohsaka@npo-giti.com
- 防災GIS: 畑山満則 (京都大学防災研究所)
Tel: 0774-38-4333
E-mail: hatayama@imdr.dpri.kyoto-u.ac.jp
- 地図・空間表現: 若林芳樹 (首都大学東京)
Tel: 042-677-2601
E-mail: wakaba@tmu.ac.jp
- FOSS4G: Venkatesh Raghavan (大阪市立大学)
連絡先: 嘉山陽一 (朝日航洋(株))
Tel: 049-244-4032
E-mail: youichi-kayama@aeroasahi.co.jp
- 若手分科会: 相尚寿 (東京大学)
Tel: 04-7136-4302
E-mail: hisaai@csis.u-tokyo.ac.jp
- IoTとGIS: 巖網林 (慶應義塾大学)
Tel: 0466-49-3453
E-mail: yan@sfc.keio.ac.jp

地方支部の連絡先一覧

- <北海道支部>
支部長: 株式会社ドーコン 三好達也
連絡先: NPO 法人 Digital 北海道研究会 (内)
Tel: 011-299-8104, E-mail: gisahokkaido@dghok.com
- <東北支部>
支部長: 東北大学 井上亮
Tel: 022-795-7478, E-mail: rinoue@tohoku.ac.jp
- <中部支部>
支部長: 中部大学 福井弘道
連絡先: 杉田暁 (中部大学)
Tel: 0568-51-9894 (内線 5714)
E-mail: satoru@isc.chubu.ac.jp
- <関西支部>
支部長: 大阪工業大学 吉川眞
連絡先: 田中一成 (大阪工業大学)
Tel: 06-6954-4293, E-mail: gisa@civil.oit.ac.jp
- <中国支部>
支部長: 広島修道大学 川瀬正樹
Tel: 082-830-1210, E-mail: kawase@shudo-u.ac.jp
- <四国支部>
支部長: 愛媛大学 Netra Prakash Bhandary
Tel: 089-927-8566, E-mail: netra@ehime-u.ac.jp
- <九州支部>
支部長: 九州大学 三谷泰浩
Tel: 092-802-3399, E-mail: gisaku@doc.kyushu-u.ac.jp
- <沖縄支部>
支部長: 琉球大学 町田宗博
E-mail: machida@ll.u-ryukyu.ac.jp
連絡先: 澤岬直彦 (NPO 法人沖縄地理情報システム協議会)
Tel: 098-863-7528, E-mail: takushi@nansei-m.co.jp

■ 編集後記 ■

新型コロナウイルス感染症の影響により、様々なことを自粛される方、在宅勤務されている方、オンライン授業に悪戦苦闘されている方(小職だけ?)等おられることと思います。毎日のように地理空間情報(人の動き)がメディアに出ています。本号の編集作業を行っている5月25日に全国の緊急事態宣言の解除が発表されました。新しい生活様式を実践しながら、制約を解決していくのかなさそうです。

10月24, 25日の研究発表大会も現地開催かオンライン開催か不明な状況です。ご担当の皆さまが大変ご苦労されていると思います。今後、オンライン併催の学会や国際会議が増えていくのでしょうか。

地理情報システム学会ニューズレター

第114号 ●発行日 2020年6月25日

■ 発行

一般社団法人 地理情報システム学会

〒113-0032 東京都文京区弥生2-4-16 学会センタービル4階
TEL/FAX: 03-5689-7955 E-mail: office@gisa-japan.org
URL: <http://www.gisa-japan.org/>

■ 弥生雑記 ■

在宅勤務中の5月後半。平日の昼間、腰を据えて自宅でパソコンに向かうことは無かったため、休日や家事に追われる1日とは異なる生活音が耳に入ってくる。

別室でテレワーク中の家族の気配。家庭訪問をしているらしい先生の声、応ずる子供や親の声。宅配のトラックやオートバイ、配達員の走る音。清掃員が箒を使う音。そして、鶯の囀り。

最初は耳を疑った。梅ならぬ芍薬に鶯、である。初夏である。人間の驚愕をよそに、彼は連日鳴き続ける。心地よさげに、朗々と見事に「ホーホケキョ」と囀り続ける。当初はその美声を喜んだ家族も「若干、うるさい」とこぼすくらいに鳴く。この時期に何かかと思ったが、調べると繁殖期は夏で、縄張りを主張して囀るらしい。飼育は禁じられているから、さては近所に巣でもあるのかと考えたが、繁華街に近接した住宅地である。営巣に適しているとも思えない。だが、同じころに鳥の鳴き声がぼったり止んだことにも気が付いた。

鳥たちの方が、一足早く「新しい生活」とやりに移行したのだろうか。(学会事務局)